

for the Hakodate Campus



函館地区キャンパスマスタープランの策定方針

役割と位置付け

- CMP2018の「4つの計画の特徴」「基本目標」「コンセプト」を踏襲しつつ、函館キャンパス個別のマスタープランを策定



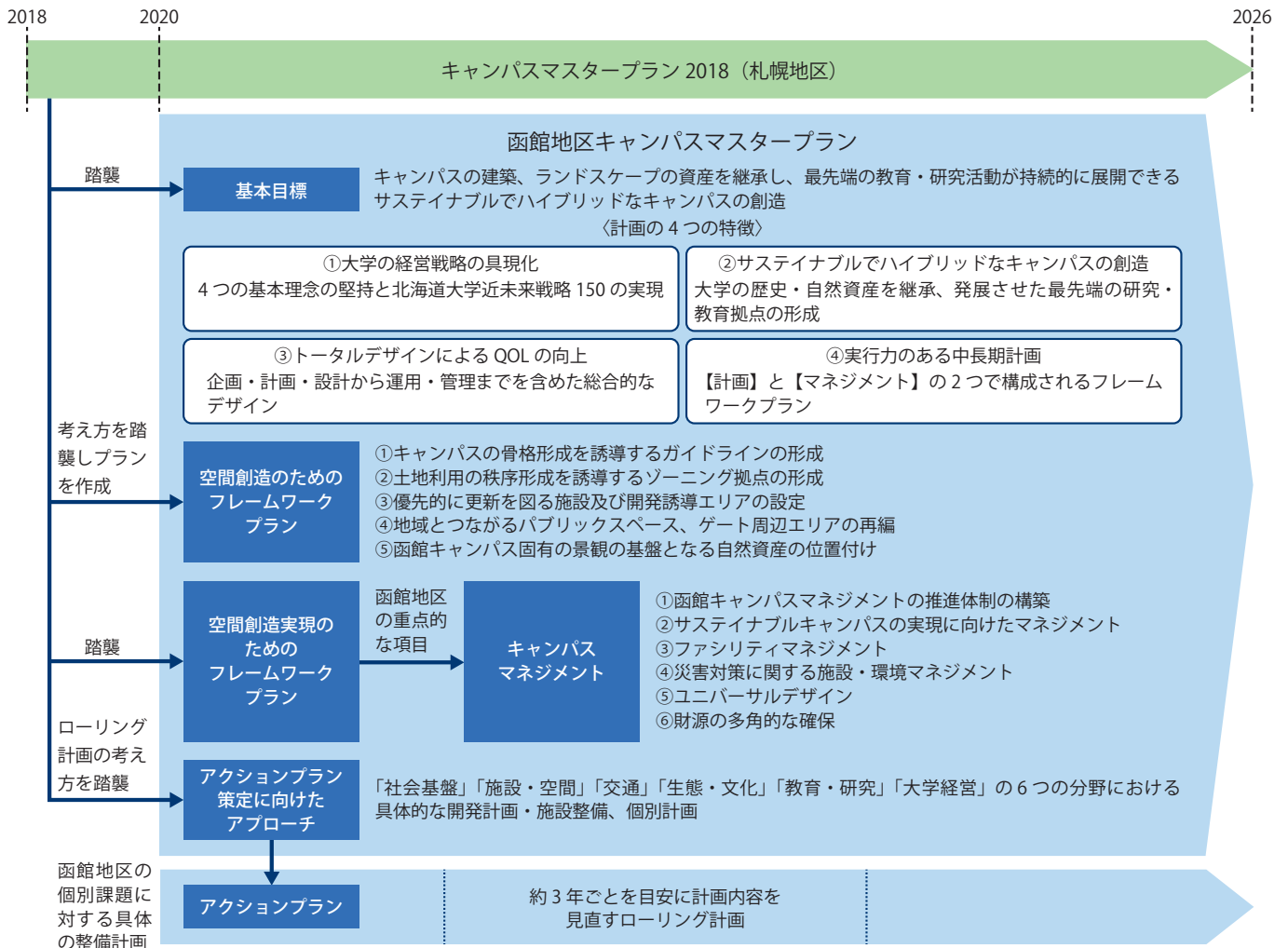
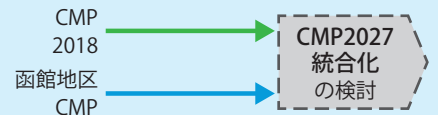
計画対象

- 函館キャンパス
- 七重浜団地
- 学生寄宿舍（中道団地）
- 職員宿舎（花園団地、梁川団地）



計画スパン

- 2026年までの7年間
- 「北海道大学近未来戦略150」、「CMP2018」と同様
- 第5期中期目標・計画へ課題点を反映
- CMP2027で札幌・函館両地区のマスタープランの統合化を検討



函館キャンパスの特徴と重点的な計画課題

老朽化改善、機能更新

築40年以上経過している老朽度の高い施設の更新の必要性

講堂、水産科学館
「インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」において「既に取り壊しているべき」建物と判定



図書館
外部改修はされているものの、大規模改修が未実施で耐震指標が不足



札幌キャンパスとの比較からみた維持管理、福利厚生サービスの課題

保有面積率

必要面積に満たない87%
(部局によりバラつき、全学的に適正規模を検討(大学全体101.5%))

維持管理費

函館キャンパスの維持保全費(特に暖房にかかる電気料金)が水産学部・水産科学研究所の部局予算を逼迫

福利厚生施設

札幌キャンパスと同等のサービス水準を求める声(課題: 厚生会館の老朽化改善、バリアフリー化、子育て支援等)

宿舍等

学生寄宿舎のアクセス面(立地距離、公共交通の不足)の負担、国際化推進のための留学生対応が不十分

オープンスペースと緑地の特性

キャンパス内のオープンスペース・緑の中長期的な位置付けを検討する必要性



実験研究棟北側

街路樹と一体的な外周緑地の隣地との関係に配慮した適正な維持管理の必要性



国道227号沿線

都市環境、アメニティ向上に資する小田島川との関係性を考慮する必要性



小田島川

キャンパス固有の景観形成に寄与する多種多様なサクラの保全・継承の必要性



講義棟前

産学官連携による函館国際水産・海洋都市構想の推進

「マリンフロンティア研究棟(2004)」「マリンサイエンス創成研究棟(2006)」の建設等により、産学官連携拠点を整備してきたが、函館市で保有の「産学官交流プラザ」が大学側に移管される等、今後の産学官連携の在り方が課題。



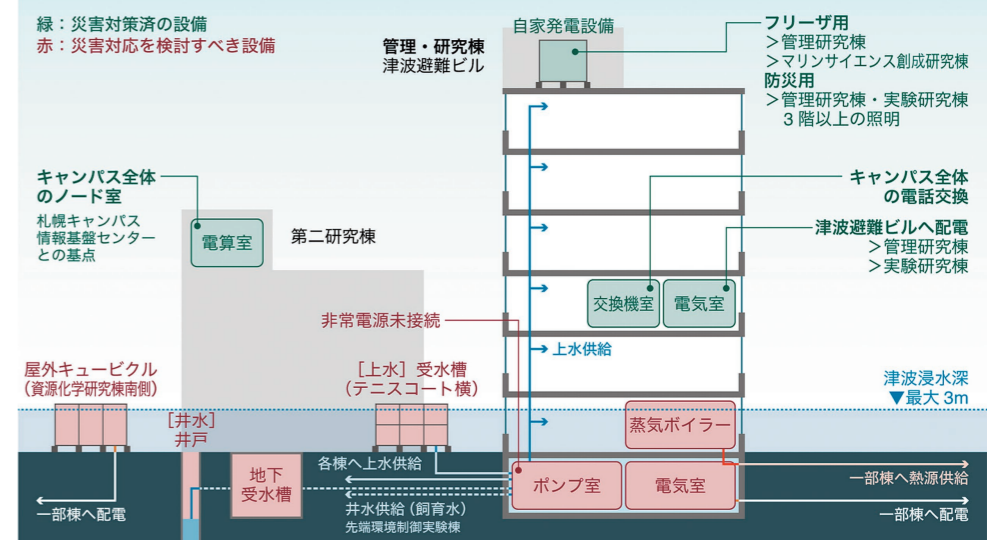
写真: マリンサイエンス創成研究棟

【函館市ヒアリング(2019)市からの要望(一部)】

- 行政と大学との連携のための窓口・体制
- 地域への人材定着のための企業と大学との連携の場
- 高等教育機関が多い市の特徴を活かす広域的連携

災害対策の必要性

- 「津波浸水区域(最大浸水深3m)」「避難困難地域」: 函館キャンパス全域
- 「津波避難ビル(避難者が一時退避する場所、避難対象地域内にある3階建て以上の建物)」: 管理・研究棟、実験研究棟
- 津波や洪水による地下浸水への対策、大規模災害等に伴う停電時の電源・水の確保のための非常用発電機系統への接続の必要性



空間創造のためのフレームワークプラン

①キャンパスの骨格形成を誘導するガイドラインの形成

ガイドライン

- 有効的な土地利用の増進、骨格形成を誘導する4つのガイドライン(今後の施設の更新等で拠り所となる軸線、標準的な区画道路の間隔100mを目安に設定)
- 現状の道路・ゲートの設置位置をベースに、キャンパスの歴史的変遷も考慮したキャンパス区画の再定義

②土地利用の秩序形成を誘導するゾーニング拠点の形成

ゾーニング拠点

- キャンパスの土地利用の秩序を形成するため、ガイドラインの結節点に、機能的なゾーニングの中心(ハブ)を位置づけ、各所の特徴に応じた空間を整備

③優先的に更新を図る施設および開発誘導エリアの設定

改修・改築・解体など対応優先度が高い施設

インフラ長寿命化計画(個別施設計画)において、以下にあてはまる施設
○改修時期から未着手のままの施設
○20年以内に取り壊すべき施設(2019年時点)

- インフラ長寿命化計画(個別施設計画)から、優先的に更新を図るべき施設を明確化
- 優先的に更新を図る施設群の配置位置より、2つの開発誘導エリアを設定

④地域とつながるパブリックスペース、ゲート周辺エリアの再編

パブリックスペース拠点

ゲート周辺整備エリア

- パブリックスペース拠点: まちと大学との接点となり、キャンパスでの様々な交流や魅力的な活動を支える中心。
- ゲート周辺整備エリア: 広域な視点における立地環境や市の交通網との接続の関係を考慮し整備を図るエリア

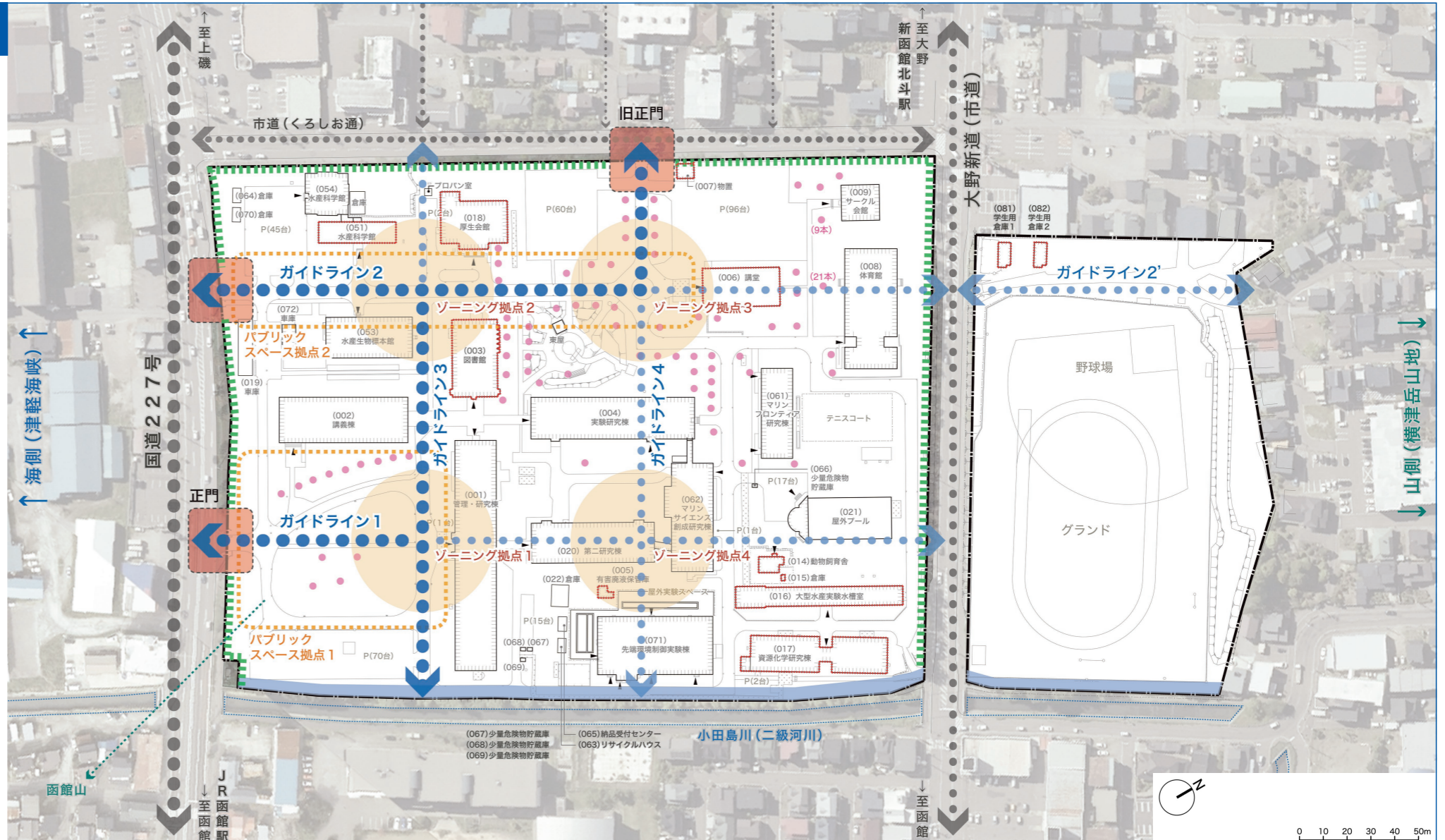
⑤函館キャンパス固有の景観の基盤となる自然資産の位置付け

サクラ 24種 108本(2019.05時点)

外周緑地帯

親水空間整備エリア

- 象徴的な既存樹木として継承を図る多種多様なサクラ
- 隣地との緩衝帯、安全で快適な緑地の確保を考慮して保全する外周緑地帯
- 都市環境、キャンパスのアメニティ向上に資する小田島川沿いの親水空間の整備



キャンパスマネジメント

基本方針：「全学的な観点からのキャンパスマネジメントの推進」

十分な連携がない個別での施設・環境の維持管理・運営

函館キャンパス

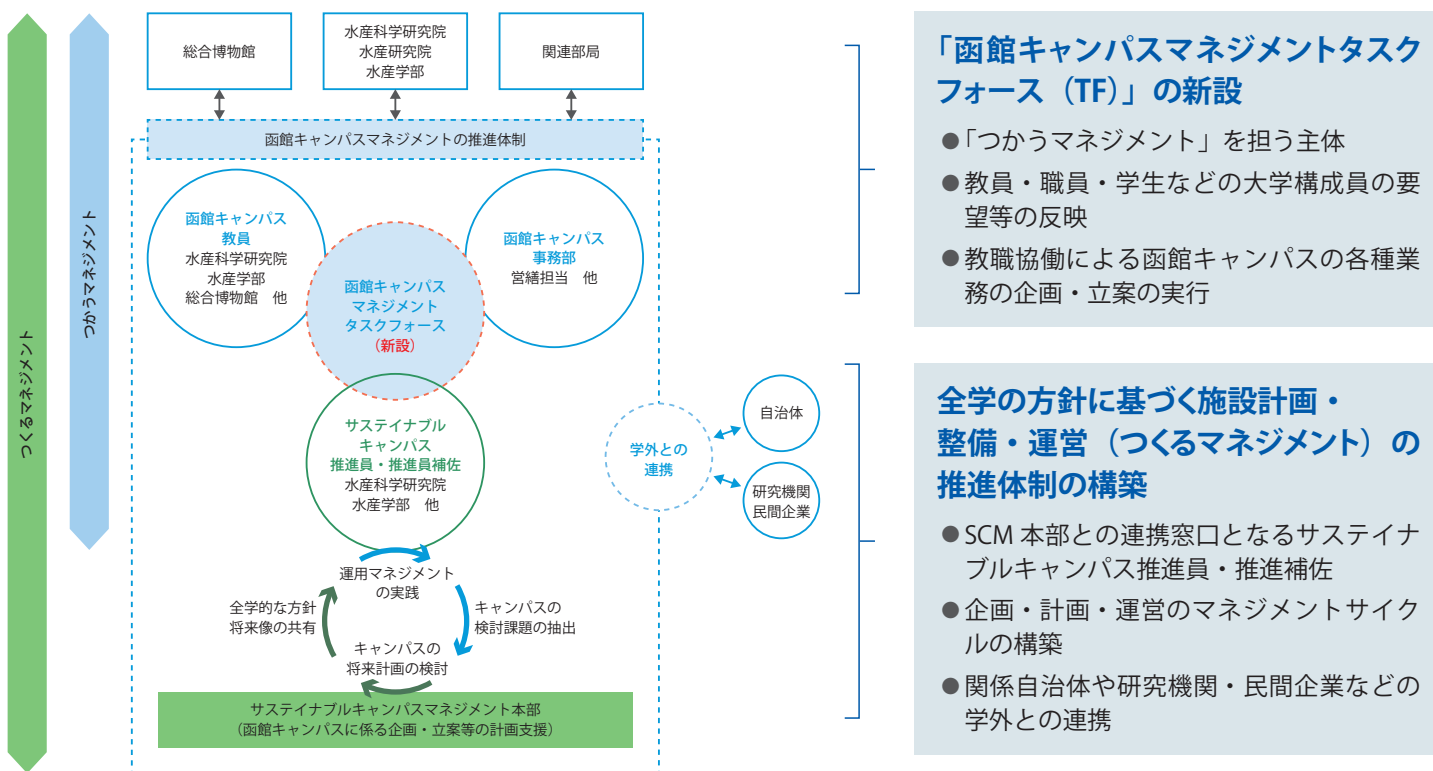
札幌キャンパス

両キャンパスを総合的に捉え運用面における連携の強化

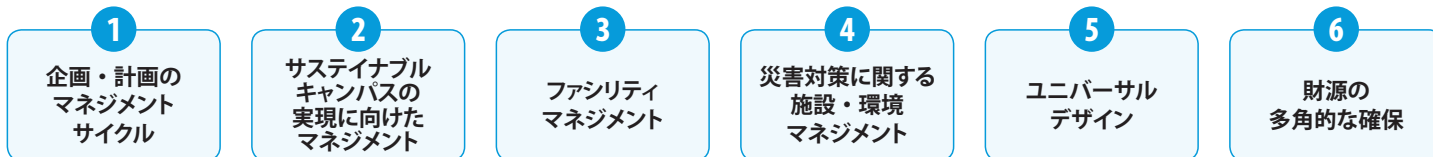
統合化

CMP2027 における計画の統合化に向けた検討

函館キャンパスマネジメントの推進体制の構築



函館キャンパスにおけるキャンパスマネジメント上の重点項目



アクションプラン

社会基盤系

施設・空間系

交通系

生態・文化系

教育・研究系

大学経営系

プロジェクト編

要素計画編

- 水産科学館、図書館、福利厚生施設の再整備計画
- 宿舍等の居住施設計画 など

- 生態環境保全管理方針
- 函館キャンパス災害対策計画 など

※計画内容・実施状況を評価し変更するというサイクルの中で柔軟に見直しを図りながら必要なアクションプランを策定